



TITLE:

京都大学医学部保健学科業績リスト (2005年1月1日～12月31日)

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学医学部保健学科業績リスト(2005年1月1日～12月31日). 京都大学医学部保健学科紀要: 健康科学 2007, 3: 91-106

ISSUE DATE:

2007-03-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/48846>

RIGHT:

京都大学医学部保健学科業績リスト (2005年1月1日～12月31日)

看護学専攻

論文

我部山キヨ子, 西尾美絵, 西尾奈美: 思春期女性の食生活とダイエット. 思春期学, 23(1): 1142-1153, 2005.

我部山キヨ子, 笹田昌孝: 京都大学大学院医学系研究科人間健康科学系専攻(修士課程)設置への期待と要望(第2報)—病院長を対象とした調査結果から—. 健康科学, 2: 35-40, 2005.

岡島恵子, 我部山キヨ子: 不妊治療を受けた母親の育児上の諸問題—日本における文献的考察—. 健康科学, 2: 61-66, 2005.

我部山キヨ子: 図解助産師のためのフィジカルイグザミネーション—フィジカルイグザミネーション序章. 助産雑誌, 59(4): 351-356, 2005.

我部山キヨ子: 図解助産師のためのフィジカルイグザミネーション—妊娠期のフィジカルイグザミネーション①身体計測. 助産雑誌, 59(5): 433-440, 2005.

我部山キヨ子: 図解助産師のためのフィジカルイグザミネーション—妊娠期のフィジカルイグザミネーション③視診・触診. 助産雑誌, 59(7): 640-647, 2005.

我部山キヨ子: 図解助産師のためのフィジカルイグザミネーション—妊娠期のフィジカルイグザミネーション④聴診・胎児心拍数モニタリング—. 助産雑誌, 59(8): 755-763, 2005.

江川隆子: 電子カルテ時代の看護診断と支援システム, 新医療, 第145号, P.144-150, 2005, 3月.

江川隆子, 奥津文子, 笠岡和子: 看護診断のためのトレーニング; パート1, 学研, Vol. 25, No. 7, 2005, P. 18-53.

笠岡和子, 奥津文子, 大矢千鶴, 江川隆子: 看護診断のためのトレーニング; パート3, 学研, Vol. 25, No. 9, 2005, P. 18-59.

江川隆子, 大坪みはる: 自己効力感. メデイカ出版, 第145号, 2005, 19月, P 144-150.

渡邊久美, 犬飼昌子, 千田好子, 野村佳代, 岡野初代, 中西代志子, 林 優子, 菅崎仁美: 介護者による気管内吸引カテーテル管理の現状と課題. 訪問看護と介護, 10(8): 666-673, 2005.

林 優子: QOL とケアの接点—看護の視点で考える—. 第15回日本サイコネフロロジー研究会—移植に向けて—その腎臓の重さ—. 臨床透析, 21(6): 100-102, 2005.

林 優子: スピリチュアリティへの看護師の関わり. 病院, 64(7): 550-554, 2005.

林 優子: インフォームドコンセント—患者とドナーと家族と—. 臓器移植看護の現在. 看護技術, 51(12): 6-8, 2005.

宮島朝子, 若村智子, 片山由美, 齋藤ゆみ: 健康を基盤とする看護教育の意義—生活健康実習の実践報告. 京都大学医学部保健学科紀要健康科学, 1: 73-78, 2005.

菅 佐和子: ひきこもりの予防に向けて. 現代のエスプリ別冊: 205-214, 2005.

菅 佐和子: クラスになじめない子の心理と行動. 児童心理, 823: 1-9, 2005.

星野明子, 桂 敏樹: F市保健推進員活動が参加者の保健行動に与える継続的效果—F市保健推進員活動の継続者とリタイア者の保健行動の比較—. 日本健康医学会雑誌, 14(2): 33-36, 2005.

祖父江育子: 看護研究を行う準備—研究計画書の作成. 外来看護新時代, 第11巻 第1号 90-95 2006.

奥津文子: 看護治療技術開発研究会活動報告—メディカルアロマ療法の看護への応用を目指して—. 京都大学医学部保健学科紀要, Vol 1: 80, 2005.

江川隆子, 奥津文子, 笠岡和子: 看護診断のための診断過程トレーニング Part 1. 月刊ナーシング: 17-53, 2005.

奥津文子, 江川隆子, 笠岡和子: 看護診断のための診断過程トレーニング Part 2. 月刊ナーシング: 17-59, 2005.

奥津文子, 江川隆子, 笠岡和子: 看護診断のための診断過程トレーニング Part 3. 月刊ナーシング: 17-58, 2005.

奥津文子: 平成16年度健康科学講演会実施報告. 京都大学医学部保健学科紀要, Vol 1: 50, 2005.

桑 和彦, 高橋正也, 尾崎章子, 若村智子: (Q & A) もう眠剤にたよらない, 患者さんの睡眠の質を高める17のケア. 看護学雑誌, 69(5): 447-456, 2005.

桂 敏樹, 松田一美, 山崎真理, 星野明子: 成人期から老年期までの体重曲線に関する追跡的研究—40万人の年齢コホートをを用いた性・年齢別検討—. 日本健康医学会雑誌, 13(4): 3-13, 2005.

桂 敏樹, 星野明子: 地域における後期高齢者の転倒と転倒による骨折に関連する要因の比較—筋力, 関節痛, 関節可動域, 歩行能力, 骨密度, 血圧, 視力, 既往歴, 自覚症状, IADL 等の多要因を用いた多変量解析による検討—. 日本健康医学会雑誌, 13(4): 14-20, 2005.

中川さとの, 桂 敏樹: 病児保育に関する現状と課題—保育所職員の意識調査—. 小児保健研究, 64(1): 54-58, 2005.

桂 敏樹, 星野明子: 地域における後期高齢者と前期高齢者における頻回転倒に関連する要因. 日本健康医学会雑誌, 14(1): 9-13, 2005.

桂 敏樹, 松田一美, 山崎真理, 星野明子: 高齢者の体重減少が健康に及ぼす影響に関する縦断的研究—高血圧改善のための体重減量至適量の検討—. 日本健康医学会雑誌, 14(2): 37-42, 2005.

著 書

我部山キヨ子, 他: 看護師国家試験問題解答と解説 2006, 医学書院, 2005.

林 優子: 呼吸機能障害に伴う成人への援助. 佐藤禮子編, 成人看護学 (放送大学教材), 放送大学振興会, 東京, 53-73, 2005.

林 優子: 内部環境調節障害に伴う成人への援助. 佐藤禮子編, 成人看護学 (放送大学教材), 放送大学振興会, 東京, 166-185, 2005.

林 優子. 慢性腎不全, ネフローゼ症候群, 慢性糸球体腎炎. 長谷川雅美, 林優子監修, 疾患と看護過程実践ガイド, 医学芸術社, 東京, 286-319, 2005.

宮島朝子 (横山美江編): よくわかる看護研究の進め方・まとめ方. IV研究成果のまとめ・発表—1学会発表, 医歯薬出版, 113-126, 2005.

宮島朝子 (南 裕子編): アクティブ・ナーシング実践オレムアンダーウッド理論ここを癒す. 4こころの世界と看護—1環境とこころの健康, 講談社, 220-238, 2005.

宮島朝子 (西村一朗編): 地域居住とまちづくり. 1地域で人々の暮らしを支える—1在宅療養者の住まい, せせらぎ出版, 18-27, 2005.

宮島朝子 (小林奈美著): グループワークで学ぶ家族

システム看護論. コラム—家族の視点から見た療養環境, 医歯薬出版, 2005.

藤内修二編, 阿彦忠彦, 岩室伸也, 星野明子, 他 9名: 市における行政組織, 市町村保健センターの役割, 市町村保健センターと県型保健所の役割分担と協働, ボランティア, 住民組織との連携「保健医療福祉行政論」, 医学書院, 東京, 46-49, 124-132, 2005.

星 旦二編 星野明子 他 5 名: 地域看護学Ⅱ, IV「2006年度保健師国家試験予想問題集」, メディカ出版, 大阪, 34-43, 59-60, 84-88, 2005.

菅 佐和子, 編著: 思春期心理臨床のチェック・ポイント, 創元社, 東京, 2005.

林 優子, 長谷川雅美, 赤澤千春, 奥津文子他: 疾患別看護過程. 医学芸術社, 2005.

江川隆子, 鷹井清吉, 笠岡和子, 奥津文子, 本田育美, 小平京子, 神山幸枝; これなら使える看護診断, 医学書院, 2006, 6月, 総頁237.

江川隆子, 奥津文子, 笠岡和子, 他: 看護過程と看護診断. ヌーベル廣川, 2005.

学会発表

Honda I, Kamiya C, Egawa T: Nursing diagnosis and Nursing record for Hemodialysis out patient's in clinic, ACENDIO, April 7-9, Slovenia

Kamiya C, Honda I, Egawa T: Index and standard of evaluation about the self-care of dialysis patient in Japan; EDTNA/ERCA 34th International Conference, September, 2005.

Vienna Atsuko Gesso, Kiyoko Kabeyama, Kumiko Ito, Kikumi Seino, Kouji Hirahata: An analysis of the multipara's concerns at the last term of pregnancy ICN 23rd Quadrennial Congress, 2005年6月 (Taiwan).

Yuko Hayashi, Keiji Yoshitani, Michiko Morimoto: Spirituality of a Kidney Transplant Recipient who Experienced Gain and Loss of Renal Function. 14th Annual ITNS Symposium and General Assembly, 2005. 9, Orland.

Megumi Okazaki, Yuko Hayashi, Aya Nakatani: Changing Process of Recipients and Donors' Determination in Three Times Informed Consent, and Their Perceiver about the Way of Informed Consent. 14th Annual ITNS Symposium and General Assembly, 2005. 9, Orland.

Hoshino A, Katsura T: Study on Functions of Health

Promotion Activities of Community Organization Influencing Participants in a Rural City, The 10th Asian Congress of Agricultural Medicine and Rural Health, 2005. 11. 95-96, Tochigi.

Ikuko Sobue: Risk factors of alcohol-related problems in Japanese male college students in Japan ICN 23rd Quadrennial Congress, Taipei 2006.

Oka Y, Miyamoto, Takegami, M, Fukuhara S, Chin K, Wakamura T, Horita S, Kadotani H: Validation of the questionnaire for the epidemiological study of restless legs syndrome and the preliminary prevalence data in Japan, APSS, Colorado, USA. 2005. 6. 18-23.

Takegami M, Kadotani H, Morita M, Nakayama Y, Minami I, Chin K, Wakamura T, Fukuhara S: Prevalence of sleep-disordered breathing and its impact on disabled days. The Second ICOH International Congress on Psychosocial Factors at Work, Okayama Japan 2005. 8.

Toshiki Katsura, Kazumi Matsuda, Mari Yamasaki, Akiko Hoshino: A Prospective Cohort Study on Changes in BMI in 400000 Japanese Employees Resided in all Prefectures. JAPAN, 10th Asian Congress of Agricultural Medicine and Rural Health, 11: 2005, Kinugawa.

金岡 緑, 我部山キヨ子: 乳幼児をもつ母親の育児支援に関する研究—母親の心理特性と育児に関する情報および解決策入手との関連性—, 第19回日本助産学会学術集會集録, 2005年3月(京都).

井倉一政, 宮崎つた子, 我部山キヨ子: 性教育実施後の満足度に影響する要因—中学生に対する性教育実施後のアンケート内容より—, 第24回思春期学会学術集會講演集, 2005年8月(和光市).

伊藤久美子, 月僧厚子, 我部山キヨ子, 清野喜久美, 滝澤和子, 平島功二: 上の子立ち会い出産に関する妊娠末期の母親への意識調査(第1報) 上の子立ち会い出産の意思決定の実態第46回日本母性衛生学会学術集會, 2005年10月(宮崎市).

月僧厚子, 我部山キヨ子, 清野喜久美, 伊藤久美子, 滝澤和子, 平島功二: 上の子立ち会い出産に関する妊娠末期の母親への意識調査(第2報) 同胞誕生準備と子どもの行動特性について, 第46回日本母性衛生学会学術集會, 2005年10月(宮崎市).

井倉一政, 宮崎つた子, 我部山キヨ子: 子どもとの関わりによる父親の成長発達に関する研究, 第46回日本母性衛生学会学術集會, 2005年10月(宮崎市).

南田智子, 我部山キヨ子: 産褥早期のマザーリングに関する研究—初期接触における親子やその他の参加者との関係性について—ビデオ観察による調査, 第20回三重母性衛生学会学術集會集録, 2005年11月(三重).

我部山キヨ子: 産婦における客観的・主観的ストレスと分娩結果の関連性—母体血および臍帯血の β エンドルフィン値と血液ガス値の変化—, 第25回日本看護科学学会学術集會, 2005年11月(青森).

我部山キヨ子, 月僧厚子, 清野喜久美, 伊藤久美子: 上の子立ち会い出産における母親や誕生子に対する上の子の反応—分娩後の母親への意識調査より—, 第25回日本看護科学学会学術集會, 2005年11月(青森).

岡崎 恵, 林 優子, 中谷 文: レシピエントとドナーが求める生体肺移植におけるインフォームドコンセント続報. 第41回日本移植学会総会, 2005. 10, 313, 新潟.

菅 真由美, 林 優子, 安田和宏: 移植コーディネーターの役割に関する意識調査. 第41回日本移植学会総会, 2005. 10, 356, 新潟.

古立公美恵, 林 優子: 術後の回復過程における生体肝移植患者の日常生活—回復の意欲のもとになるレシピエントの思いに焦点を当てて—. 第41回日本移植学会総会, 2005. 10, 288, 新潟.

井上智恵, 林 優子: 保存期腎不全患者の生活の意味. 第25回日本看護科学学会, 2005. 11, 221, 青森.

古立公美恵, 林 優子: 術後の回復過程における生体肝移植患者の日常生活. 第25回日本看護科学学会, 2005. 11, 207, 青森.

内田陽子, 林 優子: 血液透析患者の手術にかかわる体験の意味. 第25回日本看護科学学会, 2005. 11, 223, 青森.

河口てる子, 下村裕子, 林 優子, 井上智恵, 小林貴子, 安酸史子, 大池美也子, 太田美帆, 東めぐみ, 滝口成美, 横山悦子: 患者教育のための看護実践モデル(その1) モデルの概要. 第25回日本看護科学学会, 2005. 11, 217, 青森.

小平京子, 小林貴子, 小田和美, 伊藤ひろみ, 河口てる子, 下村裕子, 林 優子, 大池美也子, 近藤ふさえ, 土屋陽子: 患者教育のための看護実践モデル(その2) とっかかり/手がかり言動とその直感的解釈. 第25回日本看護科学学会, 2005. 11, 217, 青森.

東 めぐみ, 大池美也子, 安酸史子, 太田美帆, 山本千恵子, 河口てる子, 下村裕子, 小林貴子, 林 優

子, 岡美智代, 小長谷百絵: 患者教育のための看護実践モデル (その4) Professional Learning Climate の位置づけと教育可能性. 第25回日本看護科学学会, 2005. 11, 218, 青森.

林 優子: 臓器移植医療における看護の真価が問われるとき. 第1回日本移植・再生医療看護研究会学術集会, 2005. 10, 京都.

林 優子: 肺移植看護における看護師の役割と今後の課題 (シンポジウム臓器移植医療における看護師の役割). 第41回日本移植学会総会, 2005. 10, 新潟.

成木弘子, 星野明子: 地域参加型機能訓練事業における住民組織活動の機能. 第3回ヘルスプロモーション学会学術集会, 2005. 4, 福岡.

上原恵美, 荻野明美, 岡田明美, 佐藤 守, 宮島朝子: アクティウオッチによる個別健康教育の有効性. 第64回日本公衆衛生学会総会, 2005 (9月).

大島理恵子, 鷗山 治, 若村智子, 堀田佐知子, 近田敬子: 「まちの保健室」における「睡眠相談」の試み, 日本看護研究学会近畿北陸地方会学術集会抄録集, p 90, 石川. 2005. 3. 20.

柴田真志, 若村智子, 柴田しおり: 子どもの朝型・夜型タイプと身体活動量の関連. 第52回日本学校保健学会. 仙台, 2005. 10.

若村智子, 宮島朝子, 大島理恵子, 堀田佐知子, 田中恵, 谷井彩子, 吉田佳代, 古田やよい, 井上京子, 松野征美子: 光・温湿度環境が療養者の睡眠に及ぼす影響. 第12回日本時間生物学. 11 (2): 69, つくば. 2005. 11. 24-25.

近藤雅之, 登倉尋実, 若村智子, Ki-ja Hyun, 保 智巳, 森田 健, 大石 正: 室温の周期的な変動が, 睡眠時の深部体温のサーカディアンリズム, メラトニン代謝産物濃度および主観的な睡眠感に与える影響. 第12回日本時間生物学. 11 (2): 66, つくば. 2005. 11. 24-25.

寺口佐與子, 赤澤千春, 奥津文子, 江濱澄枝, 桂 敏樹: 生体肝移植術 (LRLT) を受けた成人レシピエントの術後精神症状 (POMS) の発症に関する心理社会的・身体的要因分析—第1報家族機能調査結果より—. 日本看護研究学会雑誌, Vol. 28 No. 3: 2005.

奥津文子, 寺口佐與子, 赤澤千春, 江濱澄枝, 桂 敏樹: 生体肝移植術 (LRLT) を受けた成人レシピエントの術後精神症状 (POMS) の発症に関する心理社会的・身体的要因分析—第2報心理テスト結果より—. 日本看護研究学会雑誌, Vol. 28 No. 3: 2005.

赤澤千春, 寺口佐與子, 奥津文子, 江濱澄枝, 桂 敏樹: 生体肝移植術 (LRLT) を受ける成人レシピエントの術後精神症状 (POMS) の発症に関する心理社会的・身体的要因分析—第3報身体的要因分析結果より—. 日本看護研究学会雑誌, Vol. 28 No. 3: 2005.

江濱澄枝, 赤澤千春, 寺口佐與子, 奥津文子, 桂 敏樹: 生体肝移植術 (LRLT) を受けた成人レシピエントの術後精神症状 (POMS) の発症と術後経過との関係について—第4報術後合併症と離床状況より—. 日本看護研究学会雑誌, Vol. 28 No. 3: 2005.

大徳真珠子, 江川隆子: 糖尿病患者の足潰瘍発生リスク分類批評の作成とその臨床応用について, 第10回日本糖尿病教育・看護学会, 2005, 9月, 福岡.

検査技術科学専攻

論 文

Nishida N, Hayase Y, Mikuni N, Hayashi R, Takahashi JA, Hashimoto N, Ikeda A, Amano S, Nakashima Y: A rosette-forming glioneuronal tumor caused temporal epilepsy. A form of dysembryonic neuroepithelial tumor or cortical dysplasia. Brain tumor Pathology, 2005; 22: 35-40.

Okaichi Y, Amano S, Ihara N, Hayase Y, Tazumi T, and Okaichi H: Open field behaviors and water maze learning in Ihara epileptic rats. Epilepsia, 2006; 47: 55-63.

Mikuni N, Ikeda A, Hayase Y, Amano S, Hanakawa T, Fukuyama H, Hashimoto N: Surgical resection of an epileptogenic cortical dysplasia in the deep foot sensorimotor area: a case report. Epilepsy and Behavior, in press.

Ishikawa H, Kubo A, Tsukita Sh, Tsukita Sa: Odf2/cenexin-deficient mother centrioles lack the distal/subdistal appendages and the ability to generate primary cilia. Nature Cell Biology, 2005; 7: 517-524.

Tamura A, Kikuchi S, Hata M, Katsuno T, Matsui T, Hayashi H, Suzuki Y, Noda T, Tsukita Sh, Tsukita Sa: Achlorhydria by ezrin knockdown: defects in the formation/expansion of apical canaliculi in gastric parietal cells. J Cell Biol, 2005; 169: 21-28.

Ikenouchi J, Furuse M, Furuse K, Sasaki H, Tsukita Sa, Tsukita Sh: Tricellulin constitutes a novel barrier at tricellular contacts of epithelial cells. J Cell Biol, 2005; 171: 939-945.

池本正生: 褥創形成における炎症反応の関与と炎症

- マーカー. 医療と検査機器・試薬, 2005 ; 28 (4) : 321-326.
- Oka S, Sasada M, Yamamoto K, Nohgawa M, Takahashi A, Yamashita K, Yamada H, Uchiyama T: Nitric oxide derived from human umbilical vein endothelial cells inhibits transendothelial migration of neutrophils. *Int J Hematol*, 2005 ; 81(3) : 220-227.
- Yamada H, Arai T, Endo N, Yamashita K, Nonogawa M, Makino K, Fukuda K, Sasada M, Uchiyama T: Photodynamic effects of a novel pterin derivative on a pancreatic cancer cell line. *Biochem Biophys Res Commun*, 2005 ; 333(3) : 763-767.
- Nishimura T, Nishida N, Itoh T, Komeda T, Fukuda Y, Ikai I, Yamaoka Y, Nakao K: Discrete Breakpoint Mapping and Shortest Region of Overlap of Chromosome Arm Iq Gain and Ip Loss in Human Hepatocellular Carcinoma Detected by Semiquantitative Microsatellite Analysis. *Genes, Chromosomes & Cancer*, 2005 ; 42 : 34-43.
- Nishimura T, Nishida N, Komeda T, Fukuda Y, Nakao K: Genotype stability and clonal evolution of hepatocellular carcinoma assessed by autopsy-based genome-wide microsatellite analysis. *Cancer Genetics and Cytogenetics*, 2005 ; 161 : 164-169.
- 福田善弘: 肝癌と性差, *Hepatocellular Carcinoma and Gender Difference. 性差と医療, じほう*, 2005 ; 2(10) : 1169-1175.
- 米田俊貴, 福田善弘: ウイルス性肝炎患者数は? 肥満と糖尿病, 2005 ; 4(6) : 1017-1019.
- Hosokawa R, Nohara R, Hirai T, Fujibayashi Y, Fujita M, Kambara N, Ohba M, Tadamura E, Kimura T, Kita T: Myocardial metabolism of ^{123}I -BMIPP under low-dose dobutamine infusion: implications for clinical SPECT imaging of ischemic heart disease. *Eur J Nucl Med Mol Imaging*, 2005 ; 32(1) : 75-83.
- Miwa K, Fujita M, Sasayama S: Recent insights into the mechanisms, predisposing factors, and racial differences of coronary vasospasm. *Heart Vessels*, 2005 ; 20(1) : 1-7.
- Fujita M, Tambara K, Ikemoto M, Sakamoto S, Ogai A, Kitakaze M, Sackner M: Periodic acceleration enhances release of nitric oxide in healthy adults. *Int J Angiol*, 2005 ; 14 : 11-14.
- Niimi A, Kihara Y, Sumita Y, Okano Y, Tambara K, Fujita M: Cough reflex by ventricular premature contractions. *Int Heart J*, 2005 ; 46(5) : 923-926.
- 藤田正俊: 薬理学的セオリーにかなったスタチンとコレステリンの併用. *日本醫事新報*, 2005 ; 4225 : 121.
- 中井義勝, 坂本智子, 藤田正俊, 野間俊一, 林 拓二: 神経性無食欲症の心拍変動について. *精神医学*, 2005 ; 47(3) : 261-265.
- 藤田正俊, 豊國伸哉, 三羽邦久, 池本正生, 中村紀士子, 木戸隆宏, 猪飼亜希子: 喫煙と DNA 障害マーカーであるヒト白血球 8-OHdG の関係. 平成16年度喫煙科学研究財団研究年報, 財団法人喫煙科学研究財団, 2005 ; 157-161.
- 藤田正俊: 循環器疾患と運動. *日本醫事新報*, 2005 ; 4246 : 6-10.
- Isarangkura PNA, Li G-M, Warachit J, Iwabu Y, Tsuji S, Auwanit W, Yamamoto D, Goto T, Hayashi Y, Kiso Y, Ikuta K: Different susceptibility of human immunodeficiency virus type 1 to Env gp41-derived synthetic peptides corresponding to the C-terminal heptad repeat region. *Microbes Infect*, 2005 ; 7(3) : 356-364.
- Yamamoto D, Li G-M, Ikuta K, Toshiyuki Goto T: L⁵⁶⁵ M mutation in HIV-1 glycoprotein 41 stabilizes the coiled-coil structure. *Biochem Biophys Res Commun*, 2005 ; 335(1) : 112-116.
- Mohan S, Goto T, Kohno T, Nakano T, Harada F, Kiso Y, Yoshioka S, Sano K: Evidence for the cellular uptake of anti-HIV-1 double drug KNI-1039. *Bull Osaka Med Coll*, 2005 ; 51(2) : 50-60.
- Yamate M, Yamashita M, Goto T, tsuji S, Li Y-G, Warachit J, Yunoki M, Ikuta K: Establishment of Vero E6 cell clones persistently infected with severe acute respiratory syndrome coronavirus. *Microbes Infect*, 2005 ; 7 : 1530-1540.
- 後藤俊幸: ウイルス観察のための電顕技法. *医電顕技術誌*, 2005 ; 19 : 141-142.
- Feril LB Jr., Kondo T, Cui ZG, Tabuchi Y, Zhao QL, Ando H, Misaki T, Yoshikawa H, Umemura S: Apoptosis induced by the sonomechanical effects of low intensity pulsed ultrasound in a human leukemia cell line. *Cancer Letters*, 2005 ; 221 : 145-152.
- Fukuda T, Shimizu J, Furuhashi H, Abe T, Shimizu K, Oishi T, Ogihara M, Kubota J, Sasaki A, Sasaki K, Azuma T, Umemura S: Overexpression of heat shock

proteins in pallido-nigral axonal spheroids of nonhuman aged primates. *Acta Neuropathol (Berl)*, 2005 ; 110 : 145-150.

Azuma T, Kawabata K, Umemura S, Ogihara M, Kubota J, Sasaki A, Furuhashi H : Bubble Generation by standing wave in water surrounded by cranium with transcranial ultrasonic beam. *Jpn J Appl Phys*, 2005 ; 44(6B) : 4625-4630.

Yoshikawa H, Azuma T, Kawabata K, Taniguchi Y, Umemura S : Three-dimensional tracking method of tissue motion with biplane images. *Jpn J Appl Phys*, 2005 ; 44(6B) : 4561-4566.

Kawabata K, Sugita N, Yoshikawa H, Azuma T, Umemura S : Nanoparticles with multiple perfluorocarbons for controllable ultrasonically induced phase shifting. *Jpn J Appl Phys*, 2005 ; 44(6B) : 4448-4852.

Umemura S, Kawabata K, Sasaki K : Acceleration of ultrasonic tissue heating by microbubble agent. *IEEE Trans Ultrasonics, Ferroelectrics, and Frequency Control* 2005 ; 52 : 1690-1698.

Funato T : Utility of antioncogene ribozymes and antisense oligonucleotides in reversing drug resistance. *Methods Mol Med*, 2005 ; 106 : 215-33.

Funato T, Takeda M : Approaches to detect the drug resistance in acute leukemia. *J Electrophoresis*, 2005 ; 49 : 85-93.

船渡忠男 : 造血管腫瘍診断における遺伝子定量の意義. *日本臨床検査自動化学会会誌*, 2005 ; 30 (2) : 168-171.

船渡忠男, 竹田真由 : 遺伝子検査の標準化と精度管理. *日本臨牀*, 2005 ; 63 (増刊号12) : 134-138.

船渡忠男, 竹田真由, 高橋美奈子 : アンチセンス RNA ワールド. *臨床化学*, 2005 ; 34 (3) : 205-215.

船渡忠男, 竹田真由 : アスベストと臨床検査. *機器・試薬*, 2005 ; 28 (5) : 403-406.

船渡忠男, 竹田真由 : 遺伝子検査は病気の予防に貢献しうるか. *機器・試薬*, 2005 ; 28 (6) : 511-517.

船渡忠男 : 新しい検査医学の展開を目指して. *臨床病理*, 2005 ; 53 (8) : 712-719.

竹田真由, 船渡忠男, 黒石泰司 : 近赤外分光画像計測法による無侵襲末梢血管モニタリング装置を用いたヘモグロビン濃度の測定. *京都大学医学部保健学科紀要*, 2005 ; 2 : 9-13.

福田耕治, 松原 明, 竹田真由, 寺田博美, 藤田正俊 : 学生教育のための循環器系からの生体信号 (心機能図) 評価システム構築. *京都大学医学部保健学科紀要*, 2005 ; 1 (1) : 1-6.

著 書 等

笹田昌孝 : 感染症に伴う好中球機能亢進による病態形成. *臨床血液*, 2005 ; 46 (4) : 240-244.

笹田昌孝 : セカンドオピニオンを求められた場合の高尿酸血症・痛風の患者教育. *高尿酸血症と痛風*, 2005 ; 13 (1) : 78-83.

笹田昌孝 : 好中球の機能亢進による組織傷害. *血液フロンティア*, 2005 ; 15 (6) : 3-8.

笹田昌孝 : 高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン第1版 (2002) 解説. 山口 徹, 北原光夫編, 今日の治療指針2005年版 : 医学書院, 2005 : 1561-1565.

笹田昌孝 : 好中球の機能異常症—機能低下と機能亢進—. *バイエルヘマトロジーニュース*, 第5号「特集 : 好中球」: 2005 : 8-15.

福田善弘 : 肝細胞がんの治療中に悪性リンパ腫の発生をみたC型肝炎—HCV 感染に伴う肝外病変としての悪性リンパ腫—症例と Q & A で学ぶ肝炎. 今月の治療 : 総合医学社, 2005 : 13 (10) : 11-16.

藤田正俊 : Management of atrial fibrillation: Which patient, which therapy? 篠山重威編, *AHA Highlights 2004 : TMC カンパニー*, 2005 : 76-79.

船渡忠男 : 骨粗鬆症のアセスメント. *臨床栄養に検査をどう生かすか*. 橋詰直孝編, 東京 : 宇宙堂八木書店, 2005 : 96-103.

船渡忠男, 佐々木 毅 : 免疫グロブリン (IgG, IgA, IgM, IgE, IgD). 古澤新兵, 金山正明, 橋本博史編, *臨床検査診断マニュアル*. 東京 : 永井書店, 2005 : 295-297.

船渡忠男, 高橋美奈子 : アンチセンス RNA テクノロジー. 中村義一, 大内将司監修, *RNA 工学の最前線*. 東京 : シーエムシー出版, 2005 : 205-214.

船渡忠男, 阿部正理 : 血液疾患の遺伝子診断. *Medical Practice 編集委員会編, 臨床検査ガイド2005~2006*. 東京 : 文光堂, 2005 : 643-647.

船渡忠男, 高橋美奈子 : アンチセンス RNA テクノロジー. 中村義一編, *遺伝子 MOOK 4 RNA と創薬*, 東京 : メディカルドゥ, 2005 : 132-137.

福田耕治 : MRI とその周辺 (低温について). *京都大学医学部保健学科紀要*, 2005 : 1 (1), 82-83.

学会発表

早瀬ヨネ子, 加藤順子, 白瀬智之, 天野 殖: 若年者における異型子宮内膜増殖症の遺伝子異常について. 第94回日本病理学会総会: 横浜, 2005. 4. 15.

西田南海子, 三國信啓, 三浦義紀, 江夏 怜, 早瀬ヨネ子, 池田昭夫, 天野 殖, 橋本信夫: ラットへん扁桃核カイニン酸モデル急性期における海馬電気刺激効果の検討. 第28回日本てんかん外科学会: 大阪, 2005. 4. 20.

Ishikawa H, Kubo A, Tsukita Sh, Tsukita Sa: Odf2/cenexin-deficient mother centrioles lack the distal/subdistal appendages and the ability to generate primary cilia. Gordon Research Conference: Buelton, USA, 2005.2.27-3.11.

Ishikawa H, Kubo A, Tsukita Sh, Tsukita Sa: Odf2/cenexin-deficient mother centrioles lack the distal/subdistal appendages and the ability to generate primary cilia. 第58回日本細胞生物学会大会: 大宮, 2005. 6. 16.

Tamura A, Kikuchi S, Hata M, Katsuno T, Matsui T, Hayashi H, Suzuki Y, Noda T, Tsukita Sh, Tsukita Sa: Achlorhydria by ezrin knockdown: defects in the formation/expansion of apical canaliculi in gastric parietal cells. 第58回日本細胞生物学会大会: 大宮, 2005. 6. 16.

月田早智子: ERM 蛋白質による微絨毛形成と疾患. 第46回日本組織細胞科学総会・学術集会: 京都, 2005. 10. 1.

Ishikawa H, Kubo A, Tsukita Sh, Tsukita Sa: Odf2-deficient mother centrioles lack distal/subdistal appendages and the ability to generate primary cilia. European molecular biology laboratory- Workshop Centrosomes and Spindle Pole Bodies: Heidelberg, Germany, 2005. 9. 24.

池ノ内順一, 古瀬幹夫, 古瀬京子, 佐々木博之, 月田早智子, 月田承一郎: 3つの細胞の隙間をいかにしてシールするか: 再認識された上皮細胞が持つバリア機構の解明. 第28回日本分子生物学会年大会: 福岡, 2005. 12. 7.

池本正生, 伊藤洋志, 江川裕人, 松本慎一, 村山寛, 戸谷誠之, 藤田正俊: 拒絶反応に伴う急性炎症マーカーとしての MRP8/14 の機能的役割について(その2). 臨床病理(補冊), 2005; 53: 245.

笹田昌孝: 好中球の二面性—生体に不可欠な, そして

有害な好中球. 第54回日本医学検査学会総会: 京都, 2005. 5. 13-14, 医学検査, 2005; 54(4): 305.

常峰(山田) 紘子, 荒井俊之, 山下浩平, 笹田昌孝, 内山 卓: 細胞透過性プテリン化合物の皮膚Tリンパ腫細胞株に対するPhotodynamic効果. 第67回日本血液学会総会: 横浜, 2005. 9. 17-19, 臨床血液, 2005; 46(8): 903.

宮原裕子, 高折晃史, 福永桂子, 山下浩平, 笹田昌孝, 内山 卓: 日本における家族性地中海熱の症例検討. 第67回日本血液学会総会ワークショップ「先天性疾患における最近の進歩」: 横浜, 2005. 9. 17-19, 臨床血液, 2005; 46(8): 764.

岡 諭, 笹田昌孝, 山本孝吉, 直川匡晴, 高橋淳, 山下浩平, 山田紘子, 内山 卓: 血管内皮細胞由来一酸化窒素による好中球血管外遊走の抑制. 第11回MPO 研究会: 福岡, 2005. 10. 15-16.

宮原裕子, 山下浩平, 高折晃史, 笹田昌孝, 内山卓: 日本における家族性地中海熱の症例検討. 第13回食細胞機能異常症研究会: 東京, 2005. 12. 9.

福田善弘, 米田俊貴, 西田直生志: B型肝炎に対するラミブジン療法—特に計画的治療中断療法について. 第7回 癸肝臓研究会: 京都, 2005. 10. 22.

米田俊貴, 千葉 勉, 鍋島紀茂, 福田善弘: Genotype 2a の慢性C型肝炎症例に対するコンセンサス IFN 8週間投与の試み. 第7回癸肝臓研究会: 京都, 2005. 10. 22.

山東剛裕, 勝島慎二, 福田善弘: C型肝炎硬変患者に対する治療選択について. 第7回癸肝臓研究会: 京都, 2005. 10. 22.

山東剛裕, 勝島慎二, 福田善弘: C型肝炎硬変患者に対する治療選択について. 第36回日本肝臓学会西部会: 鈴鹿, 2005. 11. 25.

Hosokawa R, Ohba M, Kambara N, Tadamura E, Fujita M, Kimura T, Nohara R, Kita T: Can myocardial oxidative consumption regulate the exercise tolerance in patients with chronic heart failure? The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society: Yokohama, 2005. 3. 19-21.

Tambara K, Fujita M, Sugimoto A, Doi K, Yamanaka K, Komeda M: Evidence of local aldosterone production in patients with left ventricular remodeling: analysis of pericardial fluid at open heart surgery. The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society: Yokohama, 2005. 3. 19-21.

- Miwa K, Fujita M: Exhaustion of vitamin E by smoking in young women. The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society: Yokohama, 2005. 3. 19-21.
- Nakano A, Lee JD, Takeishi Y, Hirai T, Kinugawa T, Fujita M: Randomized, crossover study to assess the comparative effect of valsartan and amlodipine on cardiac autonomic nervous activity in hypertensive patients. The 15th European Meeting on Hypertension: Milan, Italy, 2005. 6. 17-21.
- Arai Y, Fujita M, Marui A, Hirose K, Huang Y, Bir SC, Tabata Y, Ikeda T: Simultaneous heparin administration with sustained-release basic fibroblast growth factor enhances angiogenesis in hypercholesterolemic mouse hindlimb ischemia. The 78th Scientific Meeting of the American Heart Association: Dallas, USA, 2005. 11. 13-16.
- Terasaki F, Shimomura H, Tsukada B, Otsuka K, Kitaura Y, Ikemoto M, Fujita M: Enhanced expression of myeloid related protein complex (MRP8/14) in multinucleated giant cells and macrophages in granulomas of patients with active cardiac sarcoidosis. The 78th Scientific Meeting of the American Heart Association: Dallas, USA, 2005. 11. 13-16.
- Yamanaka K, Doi K, Tsuncyoshi H, Yamazato A, Ueno K, Zen E, Fujita M: Multislice computed tomography accurately quantifies left atrial size and function after the maze procedure. The 78th Scientific Meeting of the American Heart Association: Dallas, USA, 2005. 11. 13-16.
- 藤田正俊: 虚血心筋への血行再建. 第10回四国セロトニン研究会・記念学術集会: 高松, 2005. 3. 26.
- 藤田正俊: 健康の秘訣. (医) 黎明会北出病院「健康まつり」特別講演: 御坊, 2005. 5. 22.
- 藤田正俊: 体験学習の解説と指導. 第18回健康科学市民公開講座: 京都, 2005. 10. 1.
- 藤田正俊: 狭心症治療の進歩. 第327回福山市医師会循環器病研究会: 福山, 2005. 10. 6.
- Horiuchi R, Ido E, Akahata W, Enose Y, Ibuki K, Miura T, Goto T, Takahashi H, Hayami M: DNA vaccination of macaques by full-sized SHIV plasmids that produce non-infectious virus. 7th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific: Kobe, 2005. 7. 1-5.
- Goto T, Fujii R, Ogura H, Oseto M, Nishimura H, Sakon N, Utagawa ET: Electron Microscopic Diagnosis in Japan. Microscopy Conference 6. Dreiländertagung 2005: Davos, Switzerland, 2005. 8. 28-9. 2.
- Horiuchi R, Ido E, Akahata W, Enose Y, Ibuki K, Miura T, Goto T, Takahashi H, Hayami M: DNA vaccination of macaques by full-sized SHIV plasmids that produce non-infectious virus particles. Tenth International Conference on Emerging Infections Diseases in the Pacific Rim: Hanoi, Vietnam, 2005. 11. 16-17.
- 後藤俊幸: ウイルスの構造解析—ヒト免疫不全ウイルス (HIV) を例に. 第61回日本顕微鏡学会学術講演会: 筑波, 2005. 6. 1-3.
- 後藤俊幸, 梶村直子, 長谷川紀昭, 山本大助, 生田和良, 鷹岡昭夫: 電子顕微鏡トモグラフィーによる HIV 侵入過程のナノ観察. 第58回日本細菌学会関西支部総会: 神戸, 2005. 10. 29.
- 後藤俊幸, 李 桂梅, 生田和良, 山本大助: HIV-1 gp41 の L⁵⁶⁵M 変異はコイル—コイル構造を安定化する. 第52回日本ウイルス学会総会: 横浜, 2005. 11. 20-22.
- 森川裕子, 鶴谷直美, 後藤俊幸: 酵母遺伝変異株を利用した HIV 粒子形成機構と宿主因子の同定. 第52回日本ウイルス学会総会: 横浜, 2005. 11. 20-22.
- 伊藤洋志, 山下浩平, 山本徹也, 山本孝吉, 笹田昌孝: purines による好中球の O₂—放出能と遊走能に対する修飾作用. 第38回日本痛風・核酸代謝学会総会: 東京, 2005. 2. 3-4, 痛風と核酸代謝, 2005; 29(1): 56-57.
- 伊藤洋志, 山下浩平, 岡 論, 山本徹也, 山本孝吉, 内山 卓, 笹田昌孝: プリン体による好中球機能の修飾作用. 第67回日本血液学会・第47回日本臨床血液学会総会合同総会: 横浜, 2005. 9. 17-19.
- 梅村晋一郎: 限局性前立腺癌に対する HIFU の臨床効果: HIFU 治療の技術的限界への挑戦. 第93回日本泌尿器科学会総会: 東京, 2005. 5. 20.
- 梅村晋一郎: HIFU の技術的限界への挑戦. 日本超音波医学会第78回学術集会: 東京, 2005. 5. 20.
- 梅村晋一郎, 東 隆, 林 哲也, 村山直之: 複素ルジャンドル法によるクラッタに強いドプラ速度検出. 日本超音波医学会第78回学術集会: 東京, 2005. 5. 21.
- Umamura S, Azuma T, Sasaki K, Kawabata K: Detection of tissue coagulation by ultrasonic displace-

ment map. 150th Meeting of the Acoustical Society of America: Minneapolis, USA, 2005. 10. 17-21.

Umemura S, Kawabata K, Sasaki K, Azuma T, Ogiwara M, Ishida K, Kubota J: Technological approaches to overcome current limitation of HIFU treatment. 5th International Symposium on Therapeutic Ultrasound: Boston, USA, 2005. 10. 27-29.

船渡忠男, 松原洋一, 石岡千加史, 堀井 明, 鈴木佳子, 関崎 恵, 石川 博: 東北大学における正常人 DNA バンクの試み. 第12回日本遺伝子診療学会大会: 松本, 2005. 8. 5-6.

竹田真由, 福井一美, 池本正生, 船渡忠男, 林 三恵子: 自動核酸抽出システム QuickGene-800 による全血 RNA 抽出の検討. 日本臨床検査自動化学会第37回大会: 横浜, 2005. 9. 28-30, 日本臨床検査自動化学会誌, 2005; 30(4): 544.

船渡忠男, 阿部正理, 佐々木 毅: シタラビン (AraC) 耐性関連遺伝子としての Insulin-like growth factor (IGF-I) について. 第52回日本臨床検査医学会総会: 福岡, 2005. 11. 17-20, 臨床病理, 2005; 53(補冊): 200.

船渡忠男, 横田浩充: 造血器腫瘍の検査—検査と臨床の対話—. 第6回日本検査血液学会集会: 長崎, 2005. 7. 30-31.

船渡忠男: キメラ遺伝子検出における測定精度の保証. 第24回日本臨床化学会夏期セミナー: 山形, 2005. 7. 7-9, 臨床化学, 2005; 34 Suppl: 144-145.

船渡忠男: RNAi とアンチセンス RNA. 第24回分子病理学研究会支笏湖シンポジウム: ほっ支笏湖, 2008. 6. 16-18.

Ueno T, Chen MY, Fukuda K, Sasaki Y, Matsubara A, Mizusaki T: MRI Measurement of Contact Angle in the ^3He - ^4He Mixtures at Higher Magnetic Field. 24th International Conference on Low Temperature Physics: Florida, USA, 2005. 8. 10-17.

Ueno T, Chen MY, Fukuda K, Sasaki Y, Matsubara A, Mizusaki T: MRI Measurement of Contact Angle in the ^3He - ^4He Mixtures at Higher Magnetic Field. Ultra-Low Temperature Physics Conference 2005 (ULT2005): Florida, USA, 2005. 8. 18-20.

陳 夢元, 上野智弘, 福田耕治, 佐々木 豊, 松原明, 水崎隆雄: MRI 顕微鏡による ^3He - ^4He 混合液体の相分離面の可視化. 日本物理学会秋季大会: 京都, 2005. 9. 12-15.

上野智弘, 陳 夢元, 松山 剛, 松原 明, 佐々木 豊, 福田耕治, 水崎隆雄: 極限環境を駆使した MRI 顕微鏡の開発. 平成16年度低温物質科学研究センター研究成果発表会: 京都, 2005. 3. 4.

陳 夢元, 上野智弘, 福田耕治, 佐々木 豊, 松原明, 水崎隆雄: MRI 顕微鏡による ^3He - ^4He 混合液体の可視化. 文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「スーパークリーン物質で実現する新しい量子相の物理」領域発足研究会: 東京, 2005. 12. 15-16.

特許申請

生物組織固定・包埋・薄切用カセットおよびこのカセットを用いた固定・包埋・薄切方法 (出願番号 2005-375186).

理学療法学専攻

論 文

細川昌則, 清水基行, 奥平修三, 坪山直生: 老年性骨粗鬆症関連遺伝子の同定とその機能解析 コンジェニックマウスを用いた分子遺伝学的研究 (第3報). 代謝異常治療研究基金研究業績集, 33: 139-143, 2005.

Nankaku M, Kanzaki H, Tsuboyama T, Nakamura T: Evaluation of hip fracture risk in relation to fall direction. Osteoporos Int, 16(11): 1315-20, 2005.

Nakayama T, Tsuboyama T, Toguchida J, Tanaka C, Oya N, Hiraoka M, Nakamura T: Recurrence of osteosarcoma after intraoperative radiation therapy. Orthopedics, 28(10): 1195-7, 2005.

Kanbara K, Okamoto K, Nomura S, Kaneko T, Shigemoto R, Azuma H, Katsuoka Y, Watanabe M: Cellular localization of GABA and GABA receptor subunit proteins during spermiogenesis in rat. J Andrology, 26(4): 35-43, 2005.

市橋則明: 瞬発力の測定方法. 理学療法, 22(1): 80-86, 2005.

市橋則明, 池添冬芽, 大畑光司: 筋力低下の予防. 総合リハ, 33(7): 627-634, 2005.

市橋則明, 岩下篤司: ペダリング動作の筋電図学的評価. 理学療法, 22(6): 895-903, 2005.

武田織江, 布川雄二郎, 辻 恵津子, 大西理華, 市橋則明: リンパ浮腫に対する理学療法. 理学療法京都, 34: 76-78, 2005.

市橋則明: 開運動連鎖 (OKC) と閉運動連鎖 (CKC). 総合リハ, 33(9): 881, 2005.

市橋則明, 森永敏博, 坪山直生, 大畑光司: 施設入所高齢者に対するバランストレーニングが日常生活活動能力改善と転倒予防に与える影響. 慢性疾患・リハビリテーション研究振興財団研究助成報告書, 1-12, 2006.

黒木裕士, 中川泰彰, 森 浩二, 鈴木 隆, 池内 健, 中村孝志: 骨軟骨移植術における軟骨硬度, 表面粗さ, 厚さの測定—超音波装置を用いた病巣部軟骨と周辺正常軟骨の比較—. 別冊整形外科47 (骨・軟骨移植?最近の知見), 208-212, 2005.

Yasuaki Nakagawa, Takashi Suzuki, Yoshitaka Matsusue, Hiroshi Kuroki, Yasuyuki Mizuno, Takashi Nakamura: Bony lesion recurrence after mosaicplasty for osteochondritis dissecans of the talus. *Arthroscopy*, 21(5): 630, 2005.

中川泰彰, 森 浩二, 小林雅彦, 鈴木 隆, 黒木裕士, 池内 健, 中村孝志: 骨軟骨移植術後の再鏡視における関節軟骨の力学的評価の試み. 関節鏡, 30(1): 47-51, 2005.

中川泰彰, 小林雅彦, 鈴木 隆, 黒木裕士, 岡本幸大, 中村孝志: 骨軟骨移植術の再鏡視像と臨床成績に与える半月板の影響. 日本膝関節学会誌, 30(1): 97-99, 2005.

Hiroshi Kuroki, Yasuaki Nakagawa, Koji Mori, Masahiko Kobayashi, Ko Yasura, Yukihiro Okamoto, Takashi Suzuki, Takashi Nakamura: Ultrasound property of articular cartilage in severe varus knee osteoarthritis. *Osteoarthritis & Cartilage*, 13(Suppl. A): S129, 2005.

Tamaki A, Hasegawa S, Takemura M, Barnerjrr A, Tsujita J, Hori S, Oku Y: Study of locomotor respiratory coupling during pedaling. *Acta Medica Hyogoensis*, 30(2): 161-166, 2005.

Takahashi K, Chin K, Ogawa K, Kasahara M, Sakaguchi T, Hasegawa S, Sumi K, Nakamura T, Tamaki A, Mishima M, Tanaka K: Living donor liner transplantation with noninvasive ventilation for exertional heat stroke and sever rhabdomyolysis. *Liver Transplantation*, 11(5): 570-572, 2005.

玉木 彰, 長谷川 聡, 陳 和夫, 三嶋理晃: 呼吸リハビリテーションガイドラインをめぐって「呼吸理学療法」. 日本胸部臨床, 64(3): 214-222, 2005.

玉木 彰, 長谷川 聡, 陳 和夫, 佐藤 晋, 三嶋理晃: 急性増悪時の呼吸リハビリテーション. COPD FRONTIER, 4(3): 205-211, 2005.

玉木 彰, 高木 彩, 森 公彦, 長谷川 聡: 周術期呼吸理学療法. 呼吸器ケア, 3(9): 87-96, 2005.

玉木 彰: 臓器移植における理学療法部の役割—肺移植患者に対するリハビリテーションの実践. 看護技術, 51(12): 109-111, 2005.

Budgell B. Commentary: Non-musculoskeletal responses to chiropractic intervention: a multinational survey. *J Manipulative Physiol Ther*, 28: 365-6, 2005.

Ikezoe T, Tsutou A, Asakawa Y, Tsuboyama T: Low intensity training for frail elderly women: Long-term effects on motor function and mobility. *J Phys Ther Sci*, 17: 43-9 2005.

池添冬芽, 坪山直生: 虚弱高齢者に対する低負荷運動プログラムが運動機能および転倒率に及ぼす影響について. *Osteoporosis Japan*, 13: 715-719, 2005.

大畑光司, 市橋則明: 大腿四頭筋の筋疲労による筋活動比の変化について. 健康科学, 2: 15-19, 2005.

著 書

玉木 彰訳: Coping with your diagnosis, pulmonary rehabilitation 他, LAM Handbook —A guide for patients and their loved ones— 瀬山邦明監訳 LAM Handbook 日本版, 東京, 32-40, 56-58, 2005.

池添冬芽: 入院患者・施設高齢者の転倒・転落予防のための介入. 「エビデンスに基づく転倒・転落予防」 泉 キヨ子編, 中山書店, 東京, 108-116, 2005.

学会発表

Shimizu M, Nakanishi R, Otsuki B, Nakamura T, Hosokawa M, Mori M, Higuchi K, Tsuboyama T: Analysis of murine chromosomes 11 and 13 loci that control peak bone mass. 2nd Joint Meeting of the European Calcified Tissue Society and the International Bone and Mineral Society, 2005. 6. 25-9, Geneva.

Tsuboyama T, Takemura T, Shimizu M, Nakamura T: Self-assessment of health in relation to previous falls among general population and osteoporosis patients. 2nd Joint Meeting of the European Calcified Tissue Society and the International Bone and Mineral Society, 2005. 6. 25-9, Geneva.

中山富貴, 坪山直生, 戸口田淳也, 足立壮一, 平松英文, 小林道弘, 中村孝志: 四肢骨肉腫に対するEtoposideを使用した化学療法の成績. 第38回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2005. 7. 21-2, 横浜. 日整会誌, 79(6), S672, 2005.

坪山直生, 笠原勝幸, 鬼木浩二, 戸口田淳也, 中山富貴, 中村孝志: 下肢悪性腫瘍治療後長期生存者の自己健康評価. 第38回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2005. 7. 21-2, 横浜. 日整会誌, 79 (6), S684, 2005.

Tsuboyama T, Oniki K, Kasahara K, Toguchida J, Nakayama T, Nakamura T: Self-assessment of health among survivors of lower extremity sarcomas. 13th International Symposium on Limb Salvage, 2005. 9. 7-10, Seoul.

大槻文悟, 清水基行, 奥平修三, 中西りか, 中村孝志, 森 政之, 樋口京一, 坪山直生: マウス11番染色体上の骨量制御遺伝子の解析. 第7回日本骨粗鬆症学会, 2005. 10. 13-5, 大阪.

藤山文乃, 雲財 知, 中村公一, 岡本敬子, 野村 巖, 金子武嗣: 線条体 patch ニューロンへの視床および大脳皮質からの入力形態学的に解析する. 第111回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2005. 3. 29-31, 富山.

Kanbara K, Okamoto K, Nomura S, Kaneko T, Shigemoto R, Azuma H, Katsuoka Y, Watanabe M: Cellular localization of GABA and GABA receptor subunit proteins during spermiogenesis in rat. 8th International Congress of the Andrology, 2005. 6. 12-6, Seoul.

野村 巖: 細胞の構造と機能. 第16回電顕サマースクール, 2005. 7. 29, 東京.

市橋則明: 理学療法におけるパラダイムシフト. 第18回兵庫県理学療法士学会, 2005. 7. 17, 兵庫.

市橋則明: 下肢の運動学と理学療法. 第758回日本理学療法士協会現職者講習会, 2005. 10. 8-10, 京都.

市橋則明: 筋機能トレーニングの理論と実際. 長野県第3回市民公開研修会, 2005. 11. 6, 長野.

市橋則明: 筋の機能とトレーニング. ポスチャー研究会, 2005. 11. 19-20, 東京.

市橋則明: 歩行および免荷歩行に関する全般的知識. 第1回新しい歩行リハビリテーションセミナー, 2005. 12. 10, 大阪.

市橋則明: 歩行および免荷歩行に関する全般的知識. 第2回新しい歩行リハビリテーションセミナー, 2005. 12. 11, 東京.

市橋則明, 大畑光司, 池添冬芽, 竹村俊一, 伊吹哲子, 坪山直生: バランスリーチレッグテストと身体能

力の関連性. 第60回日本体力医学会大会, 2005. 9. 23-25, 川崎, 体力科学, 54 (6), 556, 2006.

伊吹哲子, 市橋則明, 大畑光司, 池添冬芽, 竹村俊一, 坪山直生: 高齢者における立位アライメントと動作能力について. 第60回日本体力医学会大会, 2005. 9. 23-25, 川崎, 体力科学, 54 (6), 681, 2006.

宮坂淳介, 市橋則明: 血流制限下での筋収縮における筋活動量. 第60回日本体力医学会大会, 2005. 9. 23-25, 川崎, 体力科学, 54 (6), 592, 2006.

森 公彦, 市橋則明, 池本朝子, 中村孝志: 棘下筋の筋電図学的分析: 肢位・角度・負荷量の影響. 第15回京都理学療法士学会, 2005. 2. 12, 京都, 理学療法京都, 34: 114-115, 2005.

池本朝子, 市橋則明, 森 公彦: 等尺性膝屈曲・伸展動作時の大腿筋膜張筋の筋活動 膝屈曲角度による違い. 第15回京都理学療法士学会, 2005. 2. 12, 京都, 理学療法京都 34: 110-111, 2005.

福元喜啓, 大畑光司, 市橋則明, 塚越 累, 木内隆裕, 田中 泉, 南 昌宏: 大腿骨頸部骨折患者における膝伸展筋力と日常生活動作の関係. 第15回京都理学療法士学会, 2005. 2. 12, 京都, 理学療法京都, 34: 98-99, 2005.

山下俊和, 市橋則明: 膝に痛みを持つ患者の等尺性膝伸展筋力測定における膝関節角度と抵抗の位置の影響. 第15回京都理学療法士学会, 2005. 2. 12, 京都, 理学療法京都, 34: 96-97, 2005.

伊吹哲子, 市橋則明, 中川泰彰, 石田 治, 中村孝志: 人工膝関節置換術後に立位, 座位姿勢に改善の見られた一症例. 第15回京都理学療法士学会, 2005. 2. 12, 京都, 理学療法京都, 34: 88-89, 2005.

鈴木達也, 市橋則明: 円背患者に対して体幹股関節屈筋トレーニングを試み, 姿勢の改善がみられた一症例を通して. 第15回京都理学療法士学会, 2005. 2. 12, 京都, 理学療法京都, 34: 86-87, 2005.

大西理華, 市橋則明: 膝蓋骨亜脱臼後の痛みに対し股関節・体幹筋にアプローチした一症例. 第15回京都理学療法士学会, 2005. 2. 12, 京都, 理学療法京都, 34: 84-85, 2005.

森 美幸, 市橋則明: 社会人アメリカンフットボールチームにおける1年間の外傷発生に関する検討. 第15回京都理学療法士学会, 2005. 2. 12, 京都, 理学療法京都, 34: 82-83, 2005.

西村 純, 市橋則明, 池添冬芽, 大畑光司, 宮本一恵, 水野貴文: ラグビー選手の体力測定 ポジション

別の比較. 第15回京都理学療法士学会, 2005. 2. 12, 京都, 理学療法京都, 34: 80-81, 2005.

市橋則明, 大畑光司, 西村 純, 坪山直生: 超音波画像解析による大腿四頭筋の形態的特性と膝伸展筋力の関係. 第40回日本理学療法学会大会, 2005. 5. 26-28, 大阪, 理学療法学, 32(Suppl. 2): 73, 2005.

吉田正樹, 原 良昭, 市橋則明: 筋音図を用いた筋機能評価の試み. 第40回日本理学療法学会大会, 2005. 5. 26-28, 大阪, 理学療法学, 32(Suppl. 2): 362, 2005.

西村 純, 市橋則明: ラグビー選手の筋力および持久力評価 ポジション別の比較. 第40回日本理学療法学会大会, 2005. 5. 26-28, 大阪, 理学療法学, 32(Suppl. 2): 209, 2005.

塚越 果, 大畑光司, 市橋則明, 江口 悟, 古田智彰, 菅 武俊, 奥村秀雄: 人工股関節置換術後の筋力回復に対する術式の影響. 第40回日本理学療法学会大会, 2005. 5. 26-28, 大阪, 理学療法学, 32(Suppl. 2): 206, 2005.

江口 悟, 大畑光司, 市橋則明, 塚越 果, 加藤典之, 長島健斗, 奥村秀雄: 人工股関節全置換術における術後早期の筋力 年齢による筋力回復の違い. 第40回日本理学療法学会大会, 2005. 5. 26-28, 大阪, 理学療法学, 32(Suppl. 2): 205, 2005.

岩下篤司, 市橋則明, 南角 学, 山口哲史, 高木泰宏: 足部の toe-in, toe-out が下肢筋活動に与える影響. 第40回日本理学療法学会大会, 2005. 5. 26-28, 大阪, 理学療法学, 32(Suppl. 2): 36, 2005.

竹村俊一, 大畑光司, 市橋則明, 久保田 競: 運動の調子による運動再現性の変化の違い. 第40回日本理学療法学会大会, 2005. 5. 26-28, 大阪, 理学療法学, 32(Suppl. 2): 33, 2005.

Hiroshi Kuroki, Yasuaki Nakagawa, Koji Mori, Makoto Takenaka, Tetsuo Ohashi, Yasuyuki Mizuno, Keiji Ando, Ken Ikeuchi, Takashi Nakamura: Biomechanical evaluation of osteochondral grafting using ultrasound. Lecture, School of Exercise and Sport Science, Faculty of Health Sciences, Sydney University, 2005. 3. 29, Sydney, Australia.

Hiroshi Kuroki, Akitoshi Hayashi, Kazunari Yamamoto, Hideki Kuroda, Masahiro Naka, Akiko Kawatsu, Ryusuke Shioji: Contents of rehabilitative intervention in hospice. The 6th Asia Pacific Hospice Conference, 2005, 3. 16-9, Seoul, Korea, abstract #AB028.

Hiroshi Kuroki, Yasuaki Nakagawa, Koji Mori, Makoto Takenaka, Tetsuo Ohashi, Yasuyuki Mizuno, Keiji Ando, Ken Ikeuchi, Takashi Nakamura: Maturation-dependent change of articular cartilage: an ultrasonic measurement in rabbit knees. ISAKOS 2005 Congress, 2005, 4. 3-7, Hollywood, Florida, USA, abstract #417.

Yasuaki Nakagawa, Takashi Suzuki, Yukihiro Okamoto, Hiroshi Kuroki, Masahiko Kobayashi, Takashi Nakamura: The operative results of the mosaicplasty for osteochondral diseases in the knee joints who were more than 40 years old. ISAKOS 2005 Congress, 2005, 4. 3-7, Hollywood, Florida, USA, abstract #525.

Yasuaki Nakagawa, Takashi Suzuki, Hiroshi Kuroki, Masahiko Kobayashi, Takashi Nakamura: Does the irregularity of the grafted osteochondral plugs affect the clinical results? ISAKOS 2005 Congress, 2005, 4. 3-7, Hollywood, Florida, USA, abstract #526.

Yasuyuki Mizuno, Yasuaki Nakagawa, Makoto Takenaka, Keiji Ando, Hiroshi Kuroki, Koji Mori, Takashi Suzuki, Ken Ikeuchi, Sadami Tsutsumi, Takashi Nakamura: A new evaluation method for measuring the mechanical properties of meniscus using ultrasound. ISAKOS 2005 Congress, 2005, 4. 3-7, Hollywood, Florida, USA, abstract #528.

Hiroshi Kuroki, Toshihiro Morinaga, Tome Ikezoe, Koji Ohata, Hiroshi Ieki, Hiromichi Hama: Development and clinical use of a float walking assist system using air pressure. The 4th World Confederation for Physical Therapy-Asia Western Pacific Region & The 9th Asia Confederation for Physical Therapy Congress, 2005, 10. 30-11. 1, Seoul, Korea, Proceedings of WCPT-AWP & ACPT 2005, p. 120, abstract #SL-S5-B-049, 2005.

Hiroto Shima, Toru Yorioka, Kouei Uegaki, Hiroshi Kuroki, Toshiaki Funatani, Noriko Takenaka, Hitomi Nakao, Hiroshi Kimura: The comparative examination of the decompression effect in some wheelchair cushions with the portable measuring instrument of pressure. The 4th World Confederation for Physical Therapy-Asia Western Pacific Region & The 9th Asia Confederation for Physical Therapy Congress, 2005, 10. 30-11. 1, Seoul, Korea, Proceedings of WCPT-AWP & ACPT 2005, p. 187, abstract #PO-HP-113, 2005.

Hiroshi Kuroki, Yasuaki Nakagawa, Koji Mori, Masahiko Kobayashi, Ko Yasura, Yukihiro Okamoto, Takashi Suzuki, Takashi Nakamura: Ultrasound property of articular cartilage in severe varus knee osteo-

arthritis. The 10th World Congress on Osteoarthritis, 2005, 12. 8-11, Boston, Massachusetts, USA. Osteoarthritis & Cartilage 13(Suppl. A): S129, 2005. Abstract #P-256.

玉木 彰：ALS 患者に対する在宅における呼吸理学療法の理論と技術。京都府看護協会研修会，2005. 1. 22，京都。

玉木 彰：呼吸地はビリテーションにおける世界の動向。第15回京都府理学療法士学会教育講演，2005. 3. 6，京都。

祝出 毅，玉木 彰：呼吸リハビリテーションにおける効果的なトレーニング法について—呼吸筋力と運動能力に着目して—。第15回京都府理学療法士学会，2005. 3. 6，京都，理学療法京都，34：118-119，2005。

玉木 彰，河内玲子，長谷川 聡，初山日出樹，辻田純三：支持型・非支持型上肢運動および吸気筋トレーニングが上肢運動時の運動耐容能と吸気筋力に及ぼす影響。第40回日本理学療法学術大会，2005，5. 26-28，大阪，理学療法学，32(2)：300，2005。

玉木 彰：臓器移植における呼吸理学療法。呼吸理学療法セミナー，2005. 7. 16-19，札幌。

玉木 彰，長谷川 聡，陳 和夫，室 繁郎，三嶋理晃：肺移植待機中の重症呼吸不全患者に対する呼吸リハビリテーション—薬物療法と運動療法により改善がみられた一例—。第15回日本呼吸管理学会，2005. 7. 29-30，仙台，日本呼吸管理学会誌，15(1)：172，2005。

長谷川 聡，玉木 彰，陳 和夫，佐藤 晋，室 繁郎，三嶋理晃：呼吸不全患者の運動時呼吸パターンと運動耐容能の関係。第15回日本呼吸管理学会，2005. 7. 29-30，仙台，日本呼吸管理学会誌，15(1)：204，2005。

田中まや，宮崎博子，松尾 泉，玉木 彰，西村浩一：呼吸リハビリテーションの長期効果についての検討。第15回日本呼吸管理学会，2005. 7. 29-30，仙台，日本呼吸管理学会誌，15(1)：127，2005。

玉木 彰：呼吸理学療法のためのフィジカルアセスメント。日本理学療法士協会現職者講習会 呼吸理学療法の理論と実際，2005. 9. 17-19，京都。

玉木 彰：外科術後の呼吸理学療法。日本理学療法士協会現職者講習会 呼吸理学療法の理論と実際，2005. 9. 17-19，京都。

Budgell B: Management of Somato-Visceral Disorders. International Institute of Health Sciences, 2005, 8,

Adelaide, Melbourne, Perth Australia.

Budgell B: Effects of Somatic Stimulation on Spinal Cord Blood Flow. The Order of Chiropractors of Quebec, 2005, 9, Montreal, Canada.

Budgell B: Somato-autonomic Reflexes. 2005, 9, Faculty of Medicine, University of Montreal, Canada.

池添冬芽，坪山直生：虚弱高齢者に対する低負荷運動プログラムが運動機能および転倒率に及ぼす影響。第11回近畿骨粗鬆症研究会，2005. 2. 19，大阪。

池添冬芽，浅川康吉，島 浩人：虚弱高齢者の日常生活動作能力低下に関与する因子—3年間の縦断的検討—。第40回日本理学療法学術大会，2005. 5. 26-28，大阪，理学療法学，32(Suppl.2)：77，2005。

島 浩人，池添冬芽，吉本和徳：地域在住の高齢者における低負荷運動トレーニングの介入効果—運動機能，精神機能に及ぼす影響について—。第40回日本理学療法学術大会，2005. 5. 26-28，大阪，理学療法学，32(Suppl.2)：525，2005。

池添冬芽，浅川康吉，島 浩人：虚弱高齢者の転倒恐怖感に関与する因子の検討。第47回日本老年医学会学術集会，2005. 6. 15-17，東京，日本老年医学会雑誌，42(Suppl)：128，2005。

池添冬芽，市橋則明，大畑光司，岩下篤司：ボールエクササイズにおける体幹・股関節周囲筋の筋活動。第8回日本電気生理運動学会，2005. 11. 26-27，倉敷，第8回日本電気生理運動学会大会講演予稿集，16-17，2005。

大畑光司，中 徹，南 哲，市橋則明，坪山直生：成人脳性麻痺者における筋形態評価とADLとの関係—超音波画像解析を用いた筋厚測定の結果から—。第40回日本理学療法学術大会，2005. 5. 26-28，大阪，理学療法学，32(Suppl. 2)：22，2005。

南 哲，大畑光司，中 徹，橋本千恵子，渡邊明代，生友尚志，上田純恵，春田大志，船戸正雄，矢野生子，坪山直生：成人脳性麻痺者における脊柱前後彎の形態的特徴 脊柱起立筋の筋厚および加齢との関連性。第40回日本理学療法学術大会，2005. 5. 26-28，大阪，理学療法学，32(Suppl. 2)：21，2005。

渡邊明代，大畑光司，中 徹，南 哲，橋本千恵子，生友尚志，上田純恵，春田大志，船戸正雄，矢野生子，坪山直生：成人脳性麻痺者の骨強度に影響を及ぼす因子に関する検討。第40回日本理学療法学術大会，2005. 5. 26-28，大阪，理学療法学，32(Suppl. 2)：136，2005。

南 哲, 大畑光司, 中 徹, 橋本千恵子, 渡邊明代, 生友尚志, 矢野生子, 春田大志, 船戸正雄, 上田純恵, 坪山直生: 成人脳性麻痺者の脊柱前後彎の形態的特徴 脊柱起立筋の筋厚および加齢との関連性. 第31回日本重症心身障害学会, 2005. 9. 28-29, 日本重症心身障害学会誌, 30(2): 197, 2005.

大畑光司, 市橋則明, 池添冬芽, 竹村俊一, 伊吹哲子, 坪山直生: 高齢者における脊柱後彎と運動機能の関係. 第60回日本体力医学会, 2005. 9. 23-25, 体力科学, 54(6): 675, 2005.

大畑光司, 市橋則明, 池添冬芽, 竹村俊一, 伊吹哲子, 坪山直生: 高齢者における脊柱後彎と運動機能, および踵骨骨評価値の関係. 第7回日本骨粗鬆症学会 2005, 10, 13-15, Osteoporosis Japan, 13 (Suppl. 1): 166, 2005.

福元喜啓, 大畑光司, 市橋則明, 塚越 累, 木内隆裕, 田中 泉, 南 昌宏: 大腿骨近位部骨折の術後早期における下肢筋力の回復について. 第45回近畿理学療法学会, 2005. 11. 27, 近畿理学療法学会誌, 35: 45, 2005.

大畑光司, 市橋則明, 池添冬芽, 岩下篤司, 坪山直生: 体幹回旋運動における体幹筋の機能特性. 第8回日本電気生理運動学会, 2005. 11. 26-27.

大畑光司: 中枢神経疾患患者の歩行に対する課題特異的アプローチ—Body Weight Support Training の理論と実際—. 第15回京都府理学療法士学会, 2005. 3. 6, 京都.

大畑光司: 運動学習的アプローチ. 日本理学療法士協会現職者講習会「下肢の運動学と理学療法」, 2005. 10. 8-10, 京都.

大畑光司: 重症心身障害児・者における運動機能と肺理学療法. 平成17年度重心看護研修会, 2005. 12. 3, 京都.

作業療法学専攻

論文等

Kubota Y, Toichi M, Shimizu M, Mason RA, Coconcea CM, Findling RL, Yamamoto K, Calabrese JR: Prefrontal activation during verbal fluency tests in schizophrenia. a near-infrared spectroscopy (NIRS) study. Schizophrenia Research, 77: 65-73, 2005.

山根 寛: アスペルガー障害(症候群)と作業療法アプローチ. 精神認知と OT, 2(2): 110-114, 2005.

親松恵子, 畑野相子, 山根 寛: 認知症高齢者が人形

を抱くことの意味. 精神認知と OT, 2(4): 336-341, 2005.

腰原菊恵, 山根 寛: 神経性無食欲症に対する作業療法の役割—若年神経性無食欲症患者との関わりから. 作業療法, 24(5): 484-492, 2005.

山根 寛: どう越える? 作業療法臨床初歩の壁. 精神科臨床サービス, 6: 201-204, 2005.

腰原菊恵, 山根 寛: 精神障害者小規模作業所における在宅生活支援. 作業療法ジャーナル, 39(1): 34-37, 2005.

山内俊雄, 藤川尚宏, 三澤孝夫, 加藤久雄, 松原三郎, 山根 寛他: 司法精神医療従事者の研修・教育並びに専門家養成システムの作成と実行に関する研究—2004年度報告—. 平成16年度厚生労働科学研究「触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価, 治療, 社会復帰に関する研究」分担研究報告, 2005.

宮本真己, 吉浜文洋, 齋藤慶子, 木太直人, 香山明美, 山根 寛他: 触法精神障害者の看護ならびに地域支援の手法に関する研究—2004年度報告—. 平成16年度厚生労働科学研究「触法行為を行った精神障害者の精神医学的評価, 治療, 社会復帰に関する研究」分担研究報告, 2005.

山根 寛: 作業療法とスピリチュアルケア—作業を通して生活(史)を聴く—. 緩和ケア, 9: 467-470, 2005.

十一元三: 広汎性発達障害を持つ少年の鑑別・鑑定と司法処遇. 児童青年精神医学とその近接領域, 45: 236-245, 2005.

十一元三: 自閉症の認知機能. 脳と精神の医学, 16: 27-37, 2005.

十一元三: 自閉症とアスペルガー障害. 今日の治療指針, 47(山口 徹, 北原光夫, 相沢好治総編集): 703-704, 医学書院, 2005.

十一元三: アスペルガー障害とは. 精神認知と OT, 2(2): 96-103, 2005.

十一元三: 高機能自閉症, アスペルガー症候群. 医療若子理恵, 土橋圭子(編) 自閉症スペクトラムの医療・療育・教育, p 141-155, 金芳堂, 東京, 2005.

岡田 俊, 十一元三: 強迫症状の発現における前頭葉の役割. 強迫性障害の研究, 6: 97-104, 2005.

十一元三: 広汎性発達障害の認知機能. Schizophrenia Frontier, 6: 194-198, 2005.

十一元三，腰原菊恵：統合失調症．精神看護エクスペール（坂田三充編），pp 183-193，中山書店，東京，2005．

十一元三：少年事件・刑事事件と広汎性発達障害．そだちの科学，5：89-95，2005．

十一元三：自閉症の神経生理学的基盤．児童青年精神医学とその近接領域，46：486-489，2005．

十一元三：精神科治療ガイドライン，アスペルガー症候群．精神科治療学，20（増刊号）：278-279，2005．

十一元三：自閉性障害の治療．日本精神科病院協会雑誌，24：1110-1115，2005．

十一元三：触法行動に至った事例の臨床的特徴の研究．厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業「高機能広汎性発達障害にみられる反社会的行動の成因の解明と社会支援システムの構築に関する研究」）平成16年度研究報告書，78-81，2005．

十一元三：児童青年期の抑うつ状態への薬物療法．臨床精神薬理，8：1705-1712，2005．

十一元三：臨床各科への誘い．精神科臨床研修プラクティス，2(8)：49-53，2005，文光堂，東京．

十一元三：精神科ローテートで何をどこまで学ぶか．臨床研修プラクティス，2(11)：6-7，2005，文光堂，東京．

十一元三：精神疾患の大まかなイメージをつかむ．臨床研修プラクティス，2(11)：8-9，2005，文光堂，東京．

十一元三：大人にも多い児童精神科疾患，広汎性発達障害．臨床研修プラクティス，2(11)：56-59，2005，文光堂，東京．

十一元三：広汎性発達障害の認知特性．脳と精神の医学，16：169-173，2005．

十一元三：神経学的報告からみた広汎性発達障害の特性．外来精神医療，5：30-33，2005．

高原世津子，野間俊一，種村留美，上床輝久，種村純：記憶障害例に対して残存する視覚記憶を利用したPQRST法の効果．高次脳機能研究，25(3)：251-258，2005．

加藤寿宏：軽度発達障害といわれる子どもたちの特別支援教育と作業療法．精神認知とOT，2(2)：123-126，2005．

酒井 浩，種村留美，金子 翼：振戦を呈する運動失調症に対する装具療法の効果—taxic hemiparesis と小

脳性運動失調の比較．総合リハ，33(4)：367-374，2005．

酒井 浩，土井田 稔：頸髄症における上肢運動機能の経時的変化—術後3ヶ月までの変化．健康科学，1：19-24，2005．

著 書

山根 寛：最新医学大事典第3版．後藤 稠編，医歯薬出版株式会社，東京，2005．

山根 寛：ひとと作業・作業活動改訂2版．三輪書店，東京，2005．

山根 寛編著：精神看護エクスペール13：精神看護と関連技法，1-13，111-119，中山書店，東京，2005．

山根 寛：司法精神医療，松下正明総編，中山書店，85-90，254-258，東京，2005．

学会発表・講演・他

山根 寛：実践する精神科デイケア．日本デイケア学会第10回年次大会，2005．9．

前田朝子，畑野相子，後藤則子，加賀爪雅江，熊越祐子，山根 寛：介護家族が医療者に求めるもの—痴呆高齢者の受診体験を通して．第35回滋賀県公衆衛生学会，2005．2，滋賀．

親松恵子，畑野相子，後藤則子，加賀爪雅江，熊越祐子，山根 寛：痴呆性高齢者が人形を抱く意味．第35回滋賀県公衆衛生学会，2005．2，滋賀．

山根 寛，腰原菊恵，岩佐順子，梶原香里，林 拓二：ニューロングステイ防止の作業療法—精神科早期作業療法システムの経過より—．第39回日本作業療法士学会，2005．6，茨城．

梶原香里，岸 信之，山根 寛：デイケア導入時の治療構造の工夫—場面緊張の高い症例に対するパラレルな活動の保障—．第39回日本作業療法士学会，2005．6，茨城．

腰原菊恵，山根 寛：保健所デイケアにおける作業療法士の役割—創作活動を通じた支援より—．第39回日本作業療法士学会，2005．6，茨城．

岩佐順子，山根 寛，腰原菊恵：依存の利用からパラレルな場へ回復状態に応じた治療関係—妄想性統合失調症との関わりから．第39回日本作業療法士学会，2005．6，茨城．

服部裕子，山根 寛：言語的コミュニケーションの困難な症例への関わり—日記と活動を通して—．第39回日本作業療法士学会，2005．6，茨城．

石田順子, 高原世津子, 種村留美, 村井俊哉, 中村孝志: 両側眼窩面損傷の遂行機能障害と情動障害を持つ症例に対するアプローチについて. 第39回日本作業療法学会, 2005. 6, 茨城.

中田 修, 出口智子, 高原世津子, 酒井 浩, 種村留美: 頭部外傷後に記憶障害と視知覚障害を呈した症例の復学支援 第39回日本作業療法学会, 2005. 6, 茨城.

種村留美, 村井俊哉, 種村 純, 椿原彰夫: 遂行機能障害の包括的リハビリテーションの試み. 第29回日本失語症学会, 2005. 11, 岡山.

種村留美, 村井俊哉: 概念失行を呈した症例に対する道具の意味理解による動作の促進 第29回日本失語症学会, 2005. 11, 岡山.

大塚恒弘, 種村留美: 前頭葉症状・脳梁離断症状により重篤な両手動作障害を呈した症例の両手協調動作獲得の経過 第29回日本失語症学会, 2005. 11, 岡山.

近藤 綾, 種村留美: 眼窩面損傷による行動障害と遂

行機能障害について—認知リハビリテーションを中心に—. 第29回日本失語症学会, 2005. 11, 岡山.

種村留美: 記憶障害へのアプローチ. 第3回九州地区言語聴覚士会合同学術集会, 2005. 1, 福岡.

種村留美: 高次脳機能障害を有する人との関わり方—OTの原点を考える—. 第25回近畿作業療法学会, 2005. 10, 奈良.

加藤寿宏: 感覚—動障害がある子どもの遊びを支援する—命の贈り物をいかす作業療法と遊び—. 第23回日本感覚統合学会, 2005. 11, 埼玉.

加藤寿宏, 山田 孝, 土田玲子, 太田篤志, 岩永竜一郎, 日田勝子, 永井洋一: 身体図式機能的要素の発達—日本版感覚統合検査「どこまで跳べる」より—. 第23回日本感覚統合学会, 2005. 11, 埼玉.

加藤寿宏, 山田 孝, 土田玲子, 太田篤志, 岩永竜一郎, 日田勝子, 永井洋一: 日本版感覚統合検査作成委員会からの経過報告—行為機能検査—. 第23回日本感覚統合学会, 2005. 11, 埼玉.